

11月12日(日) 第二礼拝「豊かな実を結ぶために」 ヨハネ 15章 1-4節

聖書は、イエス様はまことのぶどうの木であり、イエス様の父は農夫だと言われます。農夫である父はぶどうの木がもっと実を結ぶことを願っておられます。

第一番目、刈り込みをされます。農夫は多くの実を結ぶように、死んだ枝や、実を結ぶ可能性のない枝、芽が少ししか出ていない枝を容赦なく刈り込みます。その刈り込みはイエス様の話す言葉によってなされます。本文3節「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。」ヨハネ6章では、イエス様は男性5千人(全体で約2万人)ほどの人々を5つのパンと2匹の魚で満腹させ、その余りは12かごとになりました。その時、群衆はイエス様を無理やり王にしようとし、イエス様を探し求めました。イエス様は、パンの本当の意味を知らない彼らに、「わたしは天から下って来たパンであり、わたしの体を食べ、血を飲みなさい(信じて永遠のいのちを受けなさい。）」と言われました。しかし、群衆はイエス様の言葉につまずき離れ去っていき、12弟子だけが残りました。イエス様が霊のいのちの言葉を語ったからです。群衆はイエス様の言葉によって刈り込みをされたのです。ヨハネ6:63「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。」イエス様の御言葉は霊でありいのちですから、肉(魂)で聞くのではなく、霊で御言葉を聞く必要があります。

第二番目、イエス様にとどまることです。本文4節「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。…」枝は幹から栄養をもらい実を結びますが、その栄養とは霊とまこと、聖霊と御言葉です。それによって私達はイエス様と親密な交わりができるのです。そのためには御言葉を信じる信仰が重要です。申命記6:4-6「聞きなさい。」とありますが、信仰は聞くことから始まり、聞くことはキリストについての御言葉によります。地獄に行くはずだった私達は、福音を聞くことにより罪赦され救われました。神様は御言葉です。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、この御言葉である神を愛しなさいと聖書は言っています。愛するとは、キリストの御言葉が私達を中心となり、キリストの御言葉によって生きる力を得、生きる意味を知ることです。御霊はイエス様と共に私達のためにとりなして下さり、御言葉を私達の心に抱かせ、義、喜び、平安を与えてくださいます。そして、御言葉が私達の内生きて働く(イエス様にとどまる)ように助けてくださいます。

第三番目、御言葉を子供達に教えることです。家に聖書を置いて、子供達に御言葉を教え育てていくこと(家庭礼拝)が大事です。申命記6:7-8「あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。…手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。…家の門柱と門に書きしるしなさい。」御言葉と一つとされて、キリストの目となり耳となり口となって、生きた供え物として自分を神様に捧げる生き方です。このように、いつも身近に御言葉がある環境を整えることが大切です。御言葉を宣言する時、それを聞く人は救われ、家や職場は祝福されていきます。アーメン！